

平成 29 年度 横浜市つたのは学園 事業報告

平成 21 年度に横浜市指定管理を受託して、平成 29 年度で 9 年目を迎えた。受託初年度の平成 21 年度は、50 名定員中 28 名でのスタートであった。毎年、利用者数を定員に近い状態にしていく事を課題としながらも、この 9 年間で 21 名の方が入院、他施設の利用、引きこもり等の理由で退所し、38 名の方の受け入れを行って来た。平成 29 年度は 4 月に男性 4 名の養護学校卒業生を受け入れ、46 名のスタートとなった。この人数は、平成 29 年度横浜市指定管理予算化に向けての目標利用者数 45 名を上回った人数だが、5 月に 1 名の利用者が支援施設へ移行し、2 月には、男性 1 名が退所したため 3 月末には 44 名の在籍となった。平均障害支援区分が 5 であり、年間の平均出席率は 79.6%となっている。

4 月より総務非常勤職員が他の事業へ異動することにより総務が一人体制となったため業務の一部を施設全体で分担しさらに平成 30 年度も行っていく。

1. 事業の重要項目について

(1) 利用者の受け入れと安定した通所について

- ① 平成 29 年度 2 か所の養護学校の見学があり、5 名の方の実習を行った。実習経験を通して、養護学校進路担当教諭と職員と会議を持ちながら、2 校より 4 名の受け入れを行う予定となった。地域の方からの利用希望があったが、障害支援施設等の利用、ご本人の精神的な理由で見送りとなった。
- ② 入院や引きこもり、家族の状況で通所ができない方については、連絡を取りながら状況把握を行い関係機関と情報共有を行い専門機関へつなげ今後の方向性を検討することになった。

(2) 日中活動の充実について

- ① 活動班は 3 班に分かれ、各班に主任を配属しより責任や役割が明確になる体制とした。
- ② 利用者の障害特性に合わせ、パーテーション等を購入し利用者の環境を整えた。

(3) 人権・権利擁護について

- ① 横浜ふくしネットワークの活動に参加し内容を職員会議で報告し、意識向上に努めた。
- ② 利用者が参加する他施設との交流や権利擁護に関して勉強できる「Y ネットセミナー」に参加した。
- ③ 職員の施設間交流研修に参加し、他施設の支援の状況や当施設の支援、活動の状況を第三者の立場から意見を聞くことができ、支援の方法の振り返りができる機会となった。
- ④ オンブズパーソンによる施設訪問での意見や感想についても職員会議にて報告し共有した。
- ⑤ 年度末に「セルフチェック」を行い、職員の意識の確認を行った。平成 30 年度はこれを基に検証し基本的な支援を継続的に確認していきたい。

(4) 今後の生活の場所について

- ① 家族の高齢化や病気、利用者の機能低下等で家庭での生活が難しくなっている方が多くなってきており、面談を通して福祉サービス利用等の説明を行った。
- ② 家族からは、グループホームや障害者支援施設入所の希望があり、今後の生活の場所の確保が課題となっている。
- ③ 家族会から希望が出た「障害者支援施設偕恵」の見学を実施した。

(5) 計画相談体制について

平成 30 年度の計画相談事業所開所に向けて横浜市に申請を行った。

(6) 地域との連携強化を図る

① 地域の催事等にも積極的に参加している。また、長津田地区センターとは月 1 回の定期的な会議を行い、相互の情報交換を行いより協力体制が円滑に行われるようにしている。

② 緑区の社会福祉協議会福祉等分科会にも参加し、情報交換を行った。

2. 管理面について

(1) 環境整備について

① 建物管理等については横浜市と連絡を取りながら行っている。相談室の床点検口の腐食が進み、重みに耐えられない状態になっているため、急遽修理を行った。また、園庭門前の段差修理は 12 月に行われた。

② 利用者のソファ購入・ホールの椅子の買い替えや男女トイレの便座交換を行った。

③ また、利用者の状況からパーテーション等も購入し、より利用者が安定して活動できるよう環境を整えた。

④ 老朽化していた（温度が上がらない）陶芸釜の買い替えを横浜市が行った。年度前半に搬入予定であったが最終的には 9 月 20 日に搬入となった。

⑤ その他

- ・ 厨房蛇口修理・トイレの壁張り替え・浄水器
- ・ 浴室用リフト修理

(2) 職員体制・人材育成について

① 6 月に女性の非常勤職員、12 月に男性職員が退職をしている。募集については「ハローワーク」「福祉のおしごと」で継続的に募集を行い、10 月に男性、3 月に女性の非常勤職員を採用した。

② 横浜市が主催する「横浜市強度行動障害支援力向上研修」には平成 28 年度に続き、2 名の職員が受講することができた。また、地域で行われている「自閉症連続研修」も担当職員が毎回参加しており、平成 28 年度同様に伝達研修を行い、他の職員と情報を共有し専門的知識の向上につなげている。

③ 平成 29 年度は研修委員会をつくり、横浜市社会福祉協議会等が主催する研修会には、委員会が中心となって、年齢や経験等に配慮を行いながら受講者を調整し、参加している。また、地域の自立支援協議会にも職員が参加できるようにしているが、職員の体制上参加できないことが多くなってしまった。

④ 職員の専門性を高めるため、平成 28 年度に引き続き平本氏（所属；旭児童ホーム指導員）による研修会を実施している。後期では利用者・職員のストレングス（本人のもつ潜在的な力、未活用の能力に着目した支援の在り方）について学び、津久井やまゆり園の事件や旧優性保護法・優性思想についての研修を行った。

(3) 送迎関係について

① 公用車 7 台で 8 コース週 3 回の自宅送迎と公用バスでは 3 駅のポイント送迎を毎日 2 コース実施している。16 年目を迎えたバスの故障が頻繁であり、5 月にはエンジンが止まる状況となった。修理等も行ったが、再度バスが故障し運行できなくなった為、ワゴン車をリースした。新しいバスは 3 月 20 日に納車された。

② 公用車 5 台にドライブレコーダーの設置を行った。

(4) 災害時、防犯対策について

- ① 9月・3月に地区センターとの合同防災訓練を行い9月の防災訓練には緑区消防署立会いのもと訓練を行った。
地震を想定しての防災訓練を行い、園庭へ避難する訓練を行ったが、火災が発生した場合の避難については課題が残り、今後も消防署と情報を提供しながら検討する必要がある。
- ② 平成28年度からの引き継ぎ事項となっている防犯カメラ等については、平成30年3月12日に外壁に3ヶ所の設置が横浜市の予算で行われた。
- ③ 災害時優先電話が緑区より配布され、職員会議等で取扱い等を周知した。
- ④ 当施設は平成30年度から名称が変更される「福祉避難場所協定施設」となっているが、再度職員に周知できるようマニュアルの見直しを行っていく。

(5) 支援体制について

- ① 平成29年度は活動班に主任を配置し役割分担を明確にできる体制とした。
- ② 第一土曜日を定期的な支援会議、職員会議の日としているが、月1回の会議では情報共有に課題があるため、今後開催日の検討を行い随時情報が共有できるように検討する。

(6) 実地指導について

横浜市の実地指導が6月26日に実施された。特に「重要報告事項」はなく。「通知報告」として、運営規定の記載事項、実績記録表の記載、個別支援計画の会議等の指摘があり改善を行った。

(7) 労務管理について

- ① 9月よりタイムカードによる勤務時間の管理の実施を行っている。また、残業の申請や報告も簡素化するために書類の変更を行った。
- ② 職員の健康診断の結果、再検査を要する職員への通院を行うよう指示した。また、例年通りインフルエンザの予防接種も行った。
- ③ 職員の緊急時に連絡を迅速に取れなかった為、職員の緊急連絡先の整理をしていく。

3. 支援面について

(1) 利用者について

- ① 4月当初は46名の在籍だったが、5月に男性1名が両親の高齢と母親の病気を理由に障害者支援施設借恵に入所となった。利用者の精神面で引きこもりや家族の状況で通所できない方、精神面での服薬調整で入院される利用者もあり、区の福祉保健センターや相談支援事業・活動ホームとも継続的に連絡調整を取りながら支援を行っている。
- ② 朝の時間帯に路上で洋服を脱ぎ、車道に飛び出すなどの行動があり警察に通報された方もおり、福祉保健センターを含め家族全体の支援を行っていく。
- ③ 1月20日より男性1名が体調を崩し入院された為、嘱託医を含む関係者会議を行った。医療関係者に障害を理解していただく良い機会となった。また、嘱託医からの情報は本人の医療方針の参考となった。
各職員も日中の時間内に面会に出かけ、本人の状況及び精神面での支援を行っている。

(2) 日中活動について

- ① 3班体制で活動し各班が利用者の状況に合わせた活動を提供している。
1班は健康、体力維持（ウォーキング）を中心に行い、入浴支援等も実施している、2班は缶潰し、農耕作業を中心に活動を行っている。共有ホールで販売した夏野菜は、地

域の方に好評であり、販売日の問い合わせ等があった。平成 28 年度末より行っている箱折り作業も定着してきており、参加できる利用者も少しずつであるが増えている。また、利用者の絵を活かし、缶バッジ制作を活動に取り入れた、利用者の描いた絵を製品化し、イベントや施設内の販売を行っている。

3 月には、緑区の福祉保健センターを通して長津田ケアプラザより 400 個の缶バッジの受注があった。

第 3 班では、陶芸や刺繍等の自主製品を製作している。製品については、長津田郵便局、いわまワークス、ふれあいショップクレヨン・てのひらカフェで販売した。

(3) 送迎について

- ① 家族の高齢、負担軽減等の理由で週 3 回の自宅送迎を行い、毎日 2 か所のポイント送迎を行っている。自宅送迎対象者は 42 名であり、多い時で 8 ルートを運行している。
- ② 片道約 1 時間位かかる広域範囲での送迎となっているため、今後、職員体制や配車等の課題がある。

(4) 健康医務について

- ① 常勤看護師がおり、家族からの健康相談や体調不調の状況も看護師の視点からアドバイスできるため家族の信頼を得ている。
- ② 毎月発行される「ほけんだより」も平成 29 年度も行っている、体重や血圧など個々の状態を記入されており、健康状態を把握しやすくなっている。
- ③ 毎月 1 回の主治医による健康相談を行い、利用者家族が医療相談しやすい環境が整っている。新規利用者の家族にとっても、早い段階で嘱託医と話をすることで、不安の軽減につながっている。
- ④ 年 1 回の歯科検診は心身障害児総合医療療育センターの歯科医師によって 6 月に実施した。
- ⑤ 障害者専門の宮崎医師が継続して担当しているため、学園利用者の特性にあった検診内容となり、ご家族の歯科に対する意識が年々向上、利用者の口腔衛生状態が改善されてきている。
- ⑥ 健康診断も地域の医療機関の協力のもと 6 月に実施し、レントゲンが難しい方については主治医の医療機関で看護師が同行し実施した。また内科健診、インフルエンザの予防接種（希望者のみ）も例年通り実施した。職員については、全員実施している。
- ⑦ 職員含め 3 名の方が 12 月にインフルエンザにかかったが、拡大することはなかった。
- ⑧ 婦人科健診は 3 名の方が受診される。看護師、担当職員が同行するが、利用者の状況に応じてご家族も同行していただいた。

4. 各事業について

(1) 短期入所事業の連携

- ① 偕恵いわまワークスの短期入所利用は、宿泊に不安を感じているご家族には良い資源となっている。
- ② 現在、偕恵の短期入所登録者数は 21 名であり、毎月定期的に利用されている方も増えてきた。利用理由としては、母親の入院での緊急対応と家族の高齢や病気によるレスパイト利用となっている。

(2) 日中一時支援事業

- ① 日中活動に参加している週一回の利用登録数は現在 1 名。16 時以降の利用数は延べ人数 117 名であり延べ回数は 225 回となっている。

② 16:00 からの利用については、母親の仕事の関係での利用が増えてきている。

5. 行事について

(1) 利用者旅行について

平成 29 年度は、平成 28 年度同様 3 回に分けての旅行の実施を行った。福祉バスは 9 月の利用希望が多い為、時期を早め 6 月からの実施として進めた。ホテルや昼食等は 3 班とも共通の場所の利用を基本としたが、見学等については各班の利用者の状況に合わせての実施としている。引率応援職員は施設内と法人内の事業所の協力で行う事ができた。

(2) 食事会について

平成 29 年度も利用者全員を対象に、3 人から 4 人のグループに分かれて 5 月から 13 回実施した。平成 29 年度は新たな試みとして、利用者の希望を入れながら近隣のファミリーレストランや飲食店での実施とした。外食する機会が少ない利用者もいるため人気の行事となっている。

(3) プール活動日

- ・ 毎年、横浜市立長津田小学校のプールを借用してプール活動を実施している。平成 29 年度は 4 日間利用することができ、延べ 60 名の利用者が参加した。
- ・ 毎年市内の方より人数分のライフジャケットを借用し、安全に行う事ができている。また、平成 29 年度はサーフボードも借用することができ、違った体験をすることができた。

(4) クラブ活動

毎月 1 回午後の時間を利用して活動を行っている。平成 29 年度は 9 つのクラブ活動を提供し利用者の希望を取り各クラブ 2 名～6 名のグループで行っている。また、クラブごとに年 1 回第 4 水曜日を利用して、日帰り外出の企画を実施している。

(5) 喫茶「もちーふ」への参加

長津田地域ケアプラザで、地域のボランティア団体により月 2 回の喫茶店が開かれ、客として参加している。そして、1 名の利用者の方が、ウェイトレスとしてお手伝いを行っている。利用者が好きな飲み物等を注文し、楽しい時間を過ごすことができています。

6. 家族・家族会について

平成 29 年度は、園庭を駐車場に使用することができるようになった為、第 4 週の金曜日の実施することになった。家族会には横浜市の担当職員も出席し新しい制度の情報提供等を行っている。当施設からは法人・施設の活動や利用者の状況などの情報提供をしている。

7 月には「障害者支援施設偕恵」の見学会を実施した。14 名の方が参加され、その後契約につながった。

7. 地域の連携と交流について

(1) ボランティアの受け入れ

① 定期的な作業ボランティア

手芸ボランティア 3 名と陶芸ボランティア 1 名の方が週 1 回横浜市のシニアボランティア制度を活用して来てくださり、活動内で制作したものを縫製し製品化している。高齢であるため後継者づくりが課題となっている。

② イベント参加企画ボランティア

- ・ あすなる会・・・・年 1 回地域の中学校及び地域の方による音楽演奏。

- ・ アニマルセラピー・・・年3回（6/22・10/17・2/22）の実施。
- ・ 芋ほりイベント・・・田奈農協青年部のご協力で11月9日に行われた。
- ・ つたのは祭り・・・学生及び地域の方32名のご協力をいただいた。

③ ヘアーカットボランティア

平成28年度から協力していただき、毎回15名前後の方の申し込みがある。理容室に行けない方もいらっしゃるため、ご家族からも好評であり、平成29年度は3回行われ延べ人数27名が行われた。

(2) 施設開放利用

① 当施設が活動を行わない土・日・祝祭日を施設開放日とし地域の方にホール及び園庭を開放している。少年野球・少年サッカー・吹奏楽部・コーラス・民族楽器演奏部等の7団体が利用している。延べ利用回数はホール利用が69回、園庭利用が174回となっている。また、当施設の祭りにはこの団体の方々が「ふれあいコンサート」として演奏をしてくださった。

② 桜の開花した平成29年4月と平成30年3月に、園庭開放を行った。地域の高齢のグループホームの方や保育園の園児・障害施設の利用者を始め家族連れの方も訪れ、穏やかな時間を過ごしてくださった。平成30年3月は、訪れてくださった方に利用者がお茶を出すなどの交流を行う事が出来た。

③ 地域の保育園より平日の園庭の利用希望があり受け入れを行った。

(3) 長津田地区センター・つたのは祭り

10月14日（土）には、長津田地区センター・長津田小学校と横浜市つたのは学園との3施設連携でのお祭りを実施。35周年記念企画も同時に行う。

(4) 大石神社祭りの協力

地域の商店街より平成29年度大石神社の飾り物（花笠）の作成協力依頼があり実施した。平成28年度よりも制作できる方が増え、活動の幅が広がった。

(5) 「ココロはずむアート展」への参加

NPO法人スペースナナが主催で行われる「障がいのある方たちの、アート作品発表展：ココロはずむアート展」に当施設より5名の方の絵画や作品を出展した。

会議等に参加することにより他の施設の職員との繋がりができ情報を得ることができた。

(6) 「災害時の回覧板」を使用した取り組み

横浜市緑区社会福祉協議会が主催となり、災害時の情報把握と協力体制の情報共有を目的として8月に実施されている。区内の福祉施設を4ブロックに地区割りされている。当施設は4ブロックに所属し15施設が参加している。

(7) 地域のイベントへの参加

毎年行われている、森村学園や桐蔭学園のバザーにも利用者と共に参加し、自主製品の販売を行った。12月に行われる緑区「音まつり」に参加し、緑区の福祉大会にも販売を行った。また、平成29年度はみどり養護学校のバザーに初めて参加した。

平成 29 年度 横浜市つたのは学園 諸状況について

平成 30 年 3 月 31 日現在

1. 入退所の状況

入所者	入所年月日	入所前所属	退所者	退所年月日	退所後所属
男性	平成 29 年 4 月 1 日	養護学校	男性	平成 29 年 5 月 8 日	支援施設
男性	平成 29 年 4 月 1 日	養護学校	男性	平成 30 年 2 月 9 日	作業所
男性	平成 29 年 4 月 1 日	養護学校			
男性	平成 29 年 4 月 1 日	養護学校			

2. 援護実施機関について

市内 7 区より通所中。市外は町田 2 名、大和 1 名。

区	旭	泉	金沢	港南	港北	栄	瀬谷	鶴見	磯子	戸塚
男	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0
女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
計	2	0	0	0	1	0	5	0	0	0
区	中	西	保土ヶ谷	緑	青葉	南	都筑	神奈川	市外	合計
男	0	0	1	9	13	0	0	1	2	32
女	0	0	0	3	5	0	0	1	1	12
計	0	0	1	12	18	0	0	2	3	44

3. 年齢について

平均年齢 33.23 歳

	20 未満	20～29	30～39	40～49	50 以上	合計
男	5	14	2	7	4	32
女	1	5	2	3	1	12
計	6	19	4	10	5	44

4. 障害支援区分について

生活介護事業 区分平均 5.07

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
人数	0	0	0	12	17	15	44

5. 療育手帳の状況について

	A1	A2	B1	B2	合計
男	21	7	2	2	32
女	4	2	4	2	12
計	25	9	6	4	44

6. 身体障害の状況について

部位	視覚	聴覚	上肢	下肢	体幹	心臓
人数	1	0	1	2	2	0
等級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
人数	1	3	1	0	0	0

7. 在籍年数について

	1年未満	～2年	～3年	～5年	～10年	10年以上	合計
男	4	4	3	5	6	10	32
女	0	1	3	3	1	4	12
計	4	5	6	8	7	14	44

8. 利用者の出席率について

月	4	5	6	7	8	9		
稼働日	21	21	23	21	21	21		
出席率	81.0	77.3	80.2	82.1	81.1	80.6		
月	10	11	12	1	2	3	計	
稼働日	22	21	21	20	20	22	254	出席率
出席率	78.9	82.3	76.9	76.7	78.3	80.3		79.6

※利用者登録者数に対する出席率

9. 日中一時利用の利用状況について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	22	17	17	18	14	22	16	23	19	18	19	20	225
人数	12	10	11	8	8	11	10	13	9	8	9	8	117

前年度比 32 件増

10. 短期入所連携システムの利用状況について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泊数	11	13	10	10	22	23	13	24	23	22	20	20	211
人数	8	8	6	6	8	14	9	14	15	15	14	19	136

前年度比 94 人増

11. 教育実習生等の受入状況について

- ・ 田園調布学園大学：3名、横浜 YMCA スポーツ：2名、聖ヶ丘教育福祉専門学校：1名、桜美林大学：1名
- ・ 横浜市職員：2名、他施設職員：2名、中学生体験学習：6名

12. 養護学校生校外実習等受入の実施状況について

- ・ 県立麻生養護学校：5名、町田の丘養護学校：1名、県立みどり養護学校：1名、一日施設体験学習：4名、横浜市市が尾中学校福祉体験：4名
- ・ 横浜市谷本中学校：6名

13. ホール・グラウンドの利用状況について

第3土曜以外の土曜日と日・祝祭日に施設開放。

- ・ ホール使用回数：69回
- ・ 園庭使用回数：174回

14. 苦情・事故報告について

【事故報告件数】

	骨折	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒転落	怪我	その他	合計
平成 29 年度	2	0	0	0	0	0	2	0	6	10

※事故報告は通院、公用車については、保険使用のみとした。

- ・ その他：公用車：2件、嘔み付き：2件、通報：1件、非常ベル：1件
- ・ 通院：転倒：2件、骨折：2件、嘔み付き：2件

【ヒヤリハット件数】

	骨折	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒	器物破損	その他	合計
平成 29 年度	0	0	2	0	0	0	4	3	17	26

※所在不明は未遂

- ・ その他は飛出し、擦過、車内置き去り、他害、薬紛失

【苦情】 苦情相談受付：保護者から相談 3件

15. 施設内・外研修について

- (1) 施設外研修：43回（延べ 53人）
- (2) 自閉症連続研修：12回（職員 1名参加）
- (3) 施設内研修

【平本讓氏 連続研修】

回	月・日	研修内容
1	4月21日	社会福祉の目指すもの
2	5月20日	新年度の仕事を始めるにあたって 「どのような職員になりたいのか」
3	6月 3日	対人援助の基礎
4	7月 1日	利用者のストレングスを高めるために
5	9月26日	利用者のストレングス（その1）
6	10月31日	利用者のストレングス（その2）
7	11月30日	職員のストレングス（その1）
8	H30 2月 6日	職員のストレングス（その2）
9	H30 3月 1日	旧優生保護法・優性思想・津久井やまゆり園